

第3回 MM（メンター・メンティー）情報交換会の報告

2016年4月 形成外科学会総会にあわせて第3回先輩医師と語る会：MM情報交換会を行いました。

参加者：メンター15人（女性医師12人、男性医師3人）
メンティー13人（女性医師13人）

事前の相談内容

1. 育児、子育てと仕事の両立
2. 出産後の職場復帰
3. 他大学の女性医師の状況、他大学の育休、産休の状況
4. 専門医取得に関して、いつ取れば良いか、何を勉強すべきか

MMの会

吉村陽子委員長の女性医師の会のプレゼンテーション後に、5つのグループに分かれて、お茶とケーキをいただきながら、40分の話し合いが行われた。



女性の会にスイーツは欠かせません



MM情報交換の風景

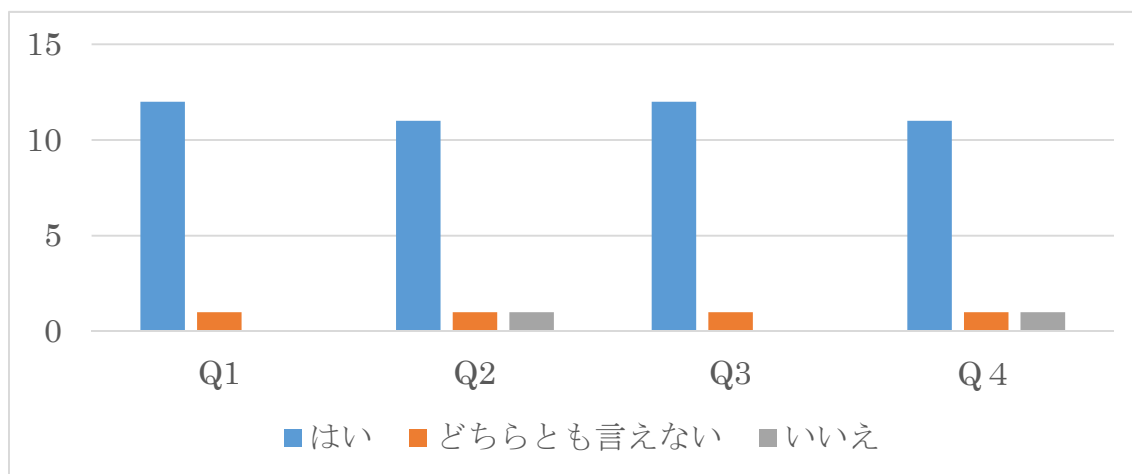
終了後 のメンティーのアンケート集計

Q1 会に参加してよかったか？

Q2 問題解決の糸口を見いだせましたか？

Q3 一緒のテーブルにいたメンティーの話から得たものはありましたか？

Q4 このような会にまた参加したいと思うか？



今後、女性医師 WG に期待することはありますか？

- ・多くの人が参加出来るように、WG の活動を広めてほしい
- ・地方会でもしてほしい、
- ・今回話せなかった先生とも話したい
- ・形成外科関連の学会開催時の託児所の設置を希望する
- ・働きたい人と働き手を求めている施設の情報共有の公開を、学会の HP などできないか
- ・出産、育児とキャリアを両立できるような、医局の枠を超えた情報がほしい
- ・他大学での女性医師の勤務状況が知りたい

女性医師の環境問題

日本の医療現場は慢性的な医師不足で、その解決策としては、女性医師が現場で活躍する事が重要です。女性が働く環境を作ることは、医師の世界に限らない国家レベルで取り組むべき大きな仕事だと思います。女性医師が、診療業務を円滑に行うには、個人の努力、夫や両親の理解と協力、および医療現場での保育施設併設などの現実的な支援体制の設備完備、そして、上司や同僚などの業務環境、病院側の理解が必要になります。仕事との両立を図れたとしても、実際には仕事の責務を十分にできない自責の念、仕事のペースダウンを余儀なくされる焦り、また、自分の子供とのスキンシップの制限、これに夫の協力が

得られない場合に起こる苛立ちやあせり、抱えている問題は多くあります。MM では、マドクターを応援し、円滑に医療現場へ戻れるようにアドバイスをしています。

女性医師の昇進問題

男性と同等、それ以上に働いていても、ステップアップに疑問を持っている人も多いと思います。最近の医師国家試験合格者に占める女性の割合は 3 割を超えるのですが、大学附属病院の教授、准教授に占める女性の割合は、精神科、皮膚科、眼科を除くと 1 割には到達していません。今後の女性医師の管理職クラスへの昇進は、徐々に増加することは予想されますが、いまだに多くの若い女性医師は所属施設でロールモデルに出会えていない状況のようです。女性は男性と違い、称号や人事力を得たいと思っている人は、争いを好まない女性遺伝子的にも少ないでしょう。医師の仕事は、自分の腕で生き死にかかわる過激なストレス社会です。医師としての自分の価値を見出せるかどうか、仕事に対する考え方はみな違いますが、与えられる仕事だけで、おなかいっぱいにならずに、つまらないことでも、やらなくてはいけないこともあります。常に前向きに、自己のステップアップを目指したいものです。

定年になられました、藤田保健衛生大学 形成外科教授 吉村陽子先生、現在はこの会の委員長をされていますし、女性として初めての特別会員になられました。今後も MM の会にはご出席されますし、また、いろいろなメンターがいます。環境および昇進などの問題、仕事の悩みやキャリアアップの問題などを相談する場としても MM をご利用ください。

2016 年度メンター一同



2016 年形成総会、MM の会終了後